

# “こども病院ボランボラコの会” web 会議報告

—公益財団法人キリン福祉財団助成事業—



WEB会議プログラム  
開催日 2022・5・18 (水)

★2022年度の事業に計画について  
★コロナ禍に「おけるボランテニア活動  
各地の状況報告

### 参加施設

- ① 宮城県立こども病院
- ② 埼玉県立小児医療センター
- ③ 神奈川県立こども医療センター
- ④ 静岡県立こども病院
- ⑤ 大阪母子医療センター
- ⑥ 沖縄県立南部医療センターこども医療センター
- ⑦ 福岡市立こども病院
- ⑧ NPO法人病気の子ども支援ネット遊びのボランテニア
- ⑨ 公益財団法人キリン福祉財団



## “こども病院ボランボラコの会” 今年度の事業計画と情報交換

第11号 2022/6/30 発行  
事務局 東京都新宿区若松町 10-1-302  
☎080-5527-4379 代表 坂上和子  
<https://boranboraco.jimdofree.com/>

### 主な内容

★今年度の事業計画

◎ボランテニアコーディネーター会議

9月10日(土曜) 時間 10時から90分  
会議テーマ「コロナ禍における状況報告」  
報告者①

・沖縄県立南部医療センターこども医療センター  
ボランテニアコーディネーター 伊波邦子

報告者②  
・交渉中

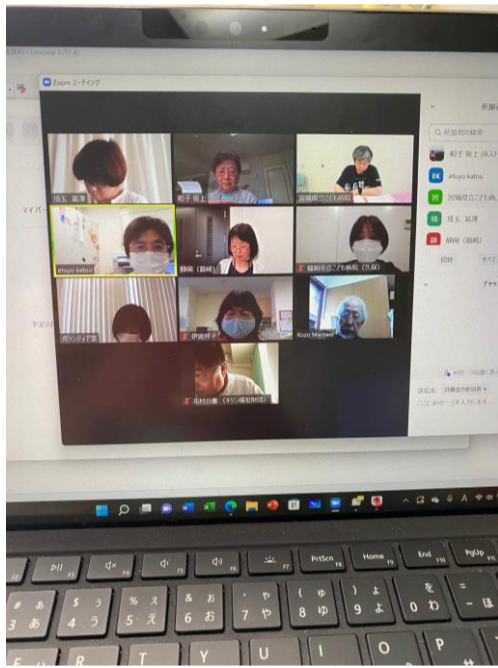
◎ボランテニア交流会

日時 2023年1月14日(土曜)

会場 神奈川県立こども医療センター

内容 各地のこども病院で活動するボランテニア  
団体との交流および情報交換

◎2023年3月4日(土曜) 総会



ご寄付いただきました

抗がん剤用布帽子(ラフリー) 4種類を45個いただき希望した病院で分けました。寄付者は宮崎浩美さん。ご自身の体験から考案されたものです。

## ボラコにつぶやき 「コロナだけど、こんな工夫でがんばってます!!」

コロナでも工夫しながら

埼玉県立小児医療センター

ボランテニアコーディネーター 富澤真麻

コロナの前は毎月2回、外来では待ち時間に工作やゲームを提供する「あそびの日」がありました。コロナの後は密になるという理由で昨年からは出来なくなりました。DVDの放映もしていましたがそれも休止となりました。プレイルームも閉鎖となり、子どもたちは居場所がなくなっていました。それでも何か出来ないかと考えて作ったものが椅子に座ったままで遊べるグッズです。(写真) かごの中は「おりがみ」「ぬりえ」「シール」「めいろ」「おえかき」が入っています。遊び方は工作紙をバインダーにはさみます。バインダーはクリアファイルのカバーで覆い、清拭消毒できるようにしました。色鉛筆やペックトボルキヤップのパズルは小分けして子どもの人数分を用意し、使ったものはすべて消毒します。コロナでいろいろなくなることが出来なくなり一時期は落ち込みましたが現在はボランテニアさんたちといろいろ話し合っていてやることを一つでも見つけようと思っています。そのアイデアのひとつがこのバインダー工作です。ボランテニアコーディネーターは子どもたちのためにどうすれば安全に楽しめるか、ボランテニアさんたちと相談し、アイデアを引き出し、どうしてもそれが生かせるか、感染管理もしっかりやりながら対応にあたる日々です。

**ボランテニアさんからのコメント**  
「長い待ち時間を少しでも楽しく過ごしてもらえよう考えました。お子さんやママたちとの会話も楽しく、『できたよー!』と持ってきてくれるお子さんの笑顔は最高です。」



令和4年度 第1回ボラコWEB会議

【日程】令和4年5月18日(水) 13:30

【参加者】10人

- ①宮城県立こども病院 大町千鶴
- ②埼玉県立小児医療センター 富澤真麻
- ③神奈川県立こども医療センター 加藤悦典
- ④静岡県立こども病院 藪崎和美
- ⑤大阪母子医療センター 河盛久美子
- ⑥沖縄県立南部医療センターこども医療センター伊波邦子
- ⑦福岡市立こども病院 久保愛美
- ⑧NPO法人病気の子ども支援ネット坂上和子・萬谷耕造
- ⑨公益財団法人キリン福祉財団 北村公重

〔沖縄〕変わらずコロナ感染者数は多く、院内のクラスターも発生している。でも、一部のボランティア活動は継続している。ボランティア室での手作り作業のほか、外来プレイルームでの見守り、さらに週1回のハンドマッサーやお子さんのヘアカットなど（病棟から依頼があればボラさんにお願ひ）している。その際3回のワクチン接種は必要。病院の受け入れ体制は「ワクチン接種していれば制限なし」。子どもの感染が増えているので、ボランティアのお孫さんの健康チェックも必要となっている。コーディネーター判断で慎重に進めている。ボランティアも病院側も、県民性によるのか、前向きな姿勢になりつつある。

〔福岡〕コロナ禍、外来・病棟どちらも対面するボランティア活動はすべて中止となっている。オンラインでのクラウン訪問やペーパーキットの定期的な提供はいただいている。病棟の中でも1か所に集まることができない状況。ワクチンの3回接種済みといえども再開することは困難。ボランティアさんからは「なにかできないか」と再開希望の声が上がっているが、ボランティア委員会や感染管理委員会など各所の協議が必要ではできない。かろうじてボランティア室での作業は再開できるかどうかというところ。もどかしさが募る。新規の問い合わせもあるが、登録の受付はストップしている。他施設との情報交換が貴重と思われ、今回初参加させていただいた。

〔大阪〕依然コロナ感染は多く、専門病棟もあるため、対面の活動はすべて中止。年度末のボランティア登録更新時では、1割が退会した（120名から108名に）。とくに75歳以上のベテランの退会が目立った。ボランティア室が別棟にあるためソーイングはやれていて、先週からようやく少人数でのミーティングも可能になり、夏祭りの代替案の検討に入った。屋外での園芸も活動できている。きょうだい預かりは場所が別棟にあるが再開の目途は立っていない。病棟のプレイルーム使用制限が緩和され2〜3名で遊べるようになったり、ボランティア活動の制限緩和が会議の議案にあがったり、少しずつ変化がみえている。ワクチンに関しては任意接種とし必須ではない。今後、感染管理委員会とも協議し対面活動の再開を目指したい。

〔静岡〕蔓延防止措置解除に伴い、4月1日から診療等対応基準が改訂された。ボランティア活動は「制限なし」となった。①病棟内活動（こどもの見守り・遊び相手）、②NICU・GCU支援（ご家族の話の傾聴など）、③夜の読み聞かせも許可された。しかしボランティアの参加が少なく、現在は読み聞かせと病棟から依頼があった時のヘアカットのみ。外来ではおはなし会開催や、外部団体によるバイオリンコンサートも企画できており、変化を感じている。メンバー登録は20名が退会したが、新規登録者もあり、現在113名となっている。

〔神奈川〕病棟はオンラインイベント・月2回の本の貸し出し。福祉施設の衣類の整理のみだが、外来や縫製・作業の活動は変わらず継続中。オンラインでのイベントを定例化し、月15回程度開催している。きょうだい預かり活動は、まだきょうだい病院内に来院できない状況であり医療者の紹介等の条件付きで5月からの再開始となった。条件付きであるがニーズに応えられるようになった事は嬉しい。対面活動が難しい中で、病棟庭の整理や野菜作りへの支援等で療養環境を良くしていく活動の拡大も図っている。

〔埼玉〕外来プレイルームの閉鎖で時間をもてあますお子さん向けに、ソファでも遊べるように、清拭消毒可のバインダーにぬりえやシール貼りなどの紙をはさんで貸し出す「バインダー作戦」を始めた。ホスピタルクラウドさんに、外から窓越しに病棟訪問してもらえないかと提案しコロナ後初めての対面イベントが実現した。6月に3年ぶりのボランティア説明会を予定している。補充ももちろん必要だが、ボランティアから「風通しをよくしなきゃ」と言われたこともある。10名程度の登録が期待される。

〔宮城〕みどりのボランティアさんのみ活動中で、他の再開は厳しい。病棟には保育士・CLSがいるのでとくに依頼もない。外来の図書管理などお願ひしたいことがあるがしかたない。各施設の状況を聞くとうちは遅れていると感じるが、ボランティアさんには高齢の方が多く、「自分も（感染が）こわい」とおっしゃる方もいる。無理せず、ボランティア通信の発行を増やし、つながる機会を作っていくたい。

〔NPO病気の子ども支援ネット〕こども病院と違って総合病院の小児病棟はさらに制限があると感じている。無料のお弁当の配達も許されず、病院に寄ることができない状況が続いている。一方で調理師資格を取得したので、クッキング教室を5月から開催する。対象はお母さん食堂でつながりのあった方で、子どもを亡くされた親御さんたち。病院の中にはいれないが、外でやれる支援に目を向けている。（坂上）

〔久しぶりにみなさんの報告を聞き、それぞれのがんばりに感激した。まだまだきびしい状態の中、踏ん張っているみなさんの存在は心強く頼もしい。このような有意義な会議は、ぜひもっと多くの方に知って参加してもらいべきだし、他病院の関係者などに入ってください意見交換の場にもなってほしい（事務局・萬谷）

〔キリン福祉財団〕みなさんのお話を聞いていたら、「この状況はどうやら少し変わってきているらしい」と感じられたことが気持ちを明るくしてくれた。でも先はまだまだ遠い。めげずにがんばっていただきたい。

『編集後記』  
やっだね！窓越しのパフォーマンス!!

埼玉 富澤真麻

ホスピタルクラウドさんのイベントの日。病棟の窓際に椅子をもってきて座って待っていてくれた子、おやつを食べているのをマネされて楽しく食べられた子、ゲームをしながら手を振ってあいさつしてくれた子。ご家族もとても楽しそうでした。クラウドさんに気づいて寝ているお子さんを慌てて起こそうとするママや、抱っこしている赤ちゃんを見せてくれたママ、驚いて泣いちゃった赤ちゃんを見て嬉しそうに笑っているママもいました。そして、そんなお子さんやご家族を見て、スタッフたちがみんな喜んでいました。クラウドさんは暑い中、危険な箇所もあったのに、みんなを楽しませようと休憩も取らずに全力でパフォーマンスしてくれました。そして「いい機会をもらった。本当に楽しかった！」と言っていた皆さま。やれてよかったなと思えました。けれどもコロナ禍でイベントを実現させるのは簡単ではありません。ヒントはボラコ事務局長打ち合わせのとき、神奈川の加藤さんがクリンルームで窓越しにクラウドさんの訪問を受け入れた話を聞いたからです。うちも窓の外からの訪問ができないかと考え、ダメ元で看護部に相談したところ、「それは思いつかなかった。クラウドさんが高所で怖くないなら」との返答があり、次に施設担当にこのようなイベントは可能か相談して了承を得ました。ボラコボラコの情報交換の場からヒントを得てこのような前向きな取り組みが実現しました。

